

## (資料5)

研究課題	5 イヌワシおよび希少鳥類の保全手法の検討
研究目的・背景	本研究では絶滅が危惧されているイヌワシについて、①県内に生息する全つがいの繁殖状況を把握して繁殖成否に関わる要因の解析を進めるとともに、②森林の列状間伐、③巣の改良、④給餌など具体的な保護施策を実施し、その効果の検討を行なった。また、⑤県内の生息状況が明らかでない希少鳥類の生息調査も行なった。
研究結果	<p>①07年の繁殖成功率は6.3%と過去最低を記録したが、その後は13~16%とやや回復した。しかし、個体数の維持に必要とされる28%には依然及ばない状態にあることが明らかになった。繁殖失敗原因が推定できたものでは、餌不足による雛の栄養不良や、巣の状態が悪いため落下したり雪の影響を受けたことが挙げられた。</p> <p>②落葉期の列状間伐地は間伐されていない茂った林よりも有意に出現頻度が高く、イヌワシの採餌場所として一定の効果を持つことが予想されたが、展葉期には伸びた葉によって間伐列が覆われ、利用頻度は低下した。</p> <p>③防雪屋根が設置された5営巣地のうち、2か所で繁殖利用が確認され、うち1か所では2年続けて雛の巣立ちが確認された。人工巣台を設置した1例では、設置後1年目と3年目にそれぞれ造巣期、抱卵期までの利用があった。出入り支障木の除去を行なった4例のうち1例では造巣活動の活発化が確認された。</p> <p>④給餌対象とした2つがいの一方では、2年目に造巣、3年目には抱卵まで繁殖行動が進んだことが確認され、もう一方のつがいでは、3年目に巣立ちに成功した。</p> <p>⑤シノリガモの目撃情報に基づき、奥州市胆沢区前川流域を探索したが、県内未確認の繁殖は確認されなかった。盛岡市のトラフズクでは2つがいの繁殖が確認された。</p>
評価結果	<p>○総合評価 A(人)・B(4人)・C(1人)・D(人)</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イヌワシの保全手法に関する貴重な実際研究である。各手法について明確な結論が得られていないので一応Cと評価しますが、要因は研究対象を考慮すると、モニタリングの期間が短いことであるのが明白です。是非とも研究を継続されるようお願いいたします。</li> <li>・少数事例相手の根気のいる難しい研究と思われます。研究の流れもきちんとしていると思います。しかし、劇的な効果のある対策がなかなか見だしにくい研究であり、評価が難しいです。ただしその挑戦する努力は評価します。連携も進めて頑張ってください。</li> <li>・劇的な成果を挙げることは困難な研究であるが、重要な研究であり、世界の取り組みも研究しながら、さらに成果が挙がるよう研究を発展させて欲しい。</li> <li>・自然動物、鳥類の生態と保全に関する研究は、国などの大きな組織で総合的に行う必要があると思われる。特に人的、予算等の面から困難である。</li> <li>・年度ごとの研究計画をしっかりと示して、計画的にとりこんでいただきたい。</li> </ul>
センターの対応方針	<p>1 完了</p> <p>日本を代表する大型猛禽類であり、その絶滅が心配されているイヌワシを保護するための調査研究は、多様で豊かな環境の保全を推進するための重要な事業であり、長期的な取り組みが必要である。今後はモニタリングを継続しながら羽や卵殻等のサンプルによる遺伝子解析を分析手法に加え、又、全国の関係機関と協力連携しながら、移動分散や遺伝的多様性に関する知見に基づく個体群としての特性を把握しつつ、保護施策の進展に寄与できるよう努めたい。</p>